

視察報告書

多気郡大台町

令和5年9月15日（金）

松阪市議会

米倉芳周

令和5年9月25日

松阪市議会議長 坂口 秀夫 様

松阪市議会
米倉 芳周

令和5年9月15日（木）13時30分より15時、行政視察を実施しましたので
下記のとおり報告いたします。

記

1. 参加者

米倉 芳周

2. 視察先及び視察事項

○多気郡大台町

大台町の観光施策について

- ① 大台町観光振興計画
- ② 大台ヶ原・大峰山・大杉谷ユネスコパークの観光活用
- ③ 観光交流施設 宮川観光振興公社・道の駅伊勢おおだい(株)・
(株)宮川物産の運営状況

3. 対応者

大台町議会	議 長	岸 良 隆 氏
大台町産業課	課 長	上 瀬 敦 也 氏
	係 長	西 出 覚 氏
	主 幹	野 呂 由 美 氏
議会事務局	書 記	秋 田 美 貴 氏

1. 大台町観光振興計画

(1) 目指す姿

ユネスコという国際的に認められた豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活用を進めるモデル地域としての位置づけ。

①地域の自然を守り、活かす観光の推進

- ・ 資源を活用した魅力ある観光地づくりを実施。
- ・ 釣りや登山など「アウトドアアクティビティ」の充実を図る。
- ・ ガイドの育成。
- ・ 観光維持協力金制度の確立を目指す。



②リピーターを増やす満足度向上の施策

- ・ 効果的な情報の発信と観光プロモーションの実施。
- ・ 多言語観光案内や「おもてなし」の対応等、観光案内の見直し。
- ・ 「おおだいファンクラブ」の確立。

③観光消費額の増加につながる推進

- ・ 農林漁業の観光資源の掘り起こし。
- ・ 滞在コンテンツの提供等による「農泊」の推進。
- ・ 「道の駅奥伊勢おおだい」の観光整備。



- ・ 宿泊施設フォレストピア



- ・ 民泊（農伯）

④観光による交流人口と関係人口の増加

- ・ テレワーク・ワーケーション施設の提供。
- ・ サテライトオフィスの誘致活動。
- ・ 空き家・空き店舗バンク制度の推進。
- ・ 移住定住への体験型プログラム支援。

(2) 各主体の役割

計画推進にあたり、町民、観光事業者、観光協会・商工会等、行政が協働で進めていく。

○町民

自然環境を維持し、先代から伝わる技術を次世代に繋げるとともに、本町の観光に関心を高める。

○観光事業者

質の高い観光コンテンツの造成と人材の育成に努める。また、新たな魅力向上が期待できるマイクロツーリズムの推進を図る。

○観光協会・商工会

観光協会と商工会が一体となり、事業に取り組み、観光事業差の育成、支援を行う。加えて、集客意識を向上し、プロモーションや情報発信を実施し、観光消費の活性化を図る。

○行政

ニーズに応じた観光フィールドの適正な管理に努め、関係機関との観光支援に向けた調整・支援を行う。また、近隣市町との広域連携による

観光振興へ積極的に参画する。

2. 大台ヶ原・大峰山・大杉谷ユネスコエコパークの活用

(1) 全国のユネスコパーク

全国で10か所

- ・福島県・・・只見ユネスコエコパーク
- ・群馬県、新潟県・・・みなかみユネスコエコパーク
- ・石川県、岐阜県、富山県、福井県・・・白山ユネスコパーク
- ・長野県、群馬県・・・志賀高原ユネスコパーク
- ・山梨県、長野県、埼玉県、東京都・・・甲武信ユネスコパーク
- ・山梨県、長野県、静岡県・・・南アルプスユネスコパーク
- ・三重県、奈良県・・・大台ヶ原、大峰山、大杉谷ユネスコパーク
- ・大分県、宮崎県・・・祖母・傾・大崩ユネスコパーク
- ・宮崎県・・・綾ユネスコパーク
- ・鹿児島県・・・屋久島・口永良部島ユネスコパーク

(2) 保護区・利用調整区域の設定

- ・大杉谷 シシ淵



- ・大台ヶ原





狩猟・開発・伐採・植物採取等を規制し、利用調整区は、入山人数の調整や事前レクチャーの実施。

(3) 自然と人間のかかわり



・大杉谷登山センター



次世代へつなぐ

エコツアーリズムを実施し、それぞれの自然環境や生き物の営みを楽しく学べる施設等の整備。

(4) 自然の保全・再生へ



・オオヤマレンゲ



「大台ヶ原自然再生推進計画」に基づく様々な事業の推進。オオヤマレンゲをはじめとする植物復元事業を実施。

3. 観光交流施設 宮川観光振興公社・道の駅奥伊勢おおだい(株)・(株) 宮川物産の運営状況

(1) 宮川観光公社 (フォレストピア) (単位 千円)

売上 (令和4年度)	163,273
原 価	25,679
総 利 益	137,594
販売管理費	133,176
営業 利益	4,417
経常 利益	7,075

- 令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)の営業成績は、令和3年度と比べ、大幅な増収(前年実績 124,660千円)であった。

令和元年からコロナ禍においては、なかなか営業利益を出すことができなかったが、本年、440万円の営業利益となった。

これは、4年度からはじまった個人向け「全国旅行支援」等による施策が、宿泊売上の増収につながったと考える。

さらに、営業外収入として、「雇用調整助成金」の「三重県飲食店時短要請協力金」等の未収金266万円を加算して、経常利益は約700万円となった。

大台町を代表するホテルとして、顧客満足の向上改善に尽力した結果とみる。今後の活躍に期待する。

(2) 道の駅奥伊勢おおだい(株) (道の駅) (単位 千円)

売上 (令和4年度)	261,814
原 価	178,677
総 利 益	82,616
販売管理費	84,453
営業 利益	△1,836
経常 利益	2,376

- 国のコロナ補助金の一環として実施された「大台町プレミアム付き商品券」の利用等、地元の顧客の増加も影響し、売上は前年比 420 万円の増加となった。

しかしながら、経費面においては、仕入価格の高騰が、販売価格に転嫁できなかったことも要因になったと推測するが、売上原価が前年比約 400 万円の増加となった。結果、売上の増加分を相殺することになった。

また、燃料費、電気料金の経費増にて、前年比約 120 万円の増加となり、営業利益は約△180 万円となった。

経常利益は、「雇用調整助成金」276 万円、その他助成金 89 万円が加算され、273 万円となり、前年同様、利益体制が保たれた結果となった。

今後、観光シーズンの到来とともに物販販売の回復に期待する。

(3) (株) 宮川物産 (加工品販売) (単位 千円)

売上 (令和 4 年度)	51,949
原 価	42,929
総 利 益	9,020
販売管理費	13,881
営業 利益	△4,861
経常 利益	△3,216

- 宮川特産品加工施設を指定管理者として運営する宮川物産は、地域の資源を活用した商品開発、製造、販売を一手に担っている会社ですが、平成 30 年度から新設された工場稼働以来、経営が厳しくなっています。

4 年度は前年伸長率 138%の売上、約 5200 万円を達成した。これは、「大台町ふるさと応援便事業」の効果や営業担当の新規採用により増収となったと推測する。

しかし、経費面においては、原材料、資材、光熱水費の高騰により、コスト増が要因となり、営業利益が、約 480 万円のマイナス計上となった。

今後、経費軽減の構築に留意する必要があるが、販売経費より、商品原価の再考を研究することが、今後の経営基盤を左右するものと考え

える。また、同時に商品開発に期待する。

4. 所感

大台町の観光施策には、ユネスコエコパークの存在は極めて大きく、この世界的なネームバリューにより様々な大台町の事業計画に影響している。

観光交流施設や地元資源による物産販売促進等の発信、プロモーションにおいても貴重な起爆剤となり、一層の活性化を呈している現状である。

しかし、その一方で、人があまり立ち入らない自然環境整備に注視しなければならず、活発な観光交流施策のうらはらに、「オーバーツーリズム」に達しないような施策も同時に進行しなければならないと感じた。要するに、町の経済的、人的活性化に沢山の観光客がきていただきたい反面、同時に自然環境破壊にならないような、相反する施策も必要であるということである。

浦谷オートキャンプ場、リバーサイドビレッジ、大杉谷林間キャンプ村、そして、民泊施設、ホテル、旅館等、滞在型観光地であることは、大きな強みである。

大自然に囲まれた清流宮川を中心とした「アクティビティ」も豊富にメニューが揃っており、それらを担う人材も確保されている状況は、地域一帯の集客数を換算しても、素晴らしいリゾート地と言える。

長年の観光実績の蓄積から地域一帯がリゾート化していることを改めて認識した。

現在、自然環境整備の観点から検討中である「観光維持協力金制度」の実施を急ぐ必要があるとも感じた。

以上